

回輝語の類別詞について

田添暢彦

キーワード：回輝語、オーストロネシア語族、類別詞

要旨

回輝語は中華人民共和国海南省三亜市鳳凰鎮回輝村および回新村におよそ 6000 人の話者を持つオーストロネシア系の言語である。本論では筆者が 2002 年から 2010 年に行った現地調査で得られた資料¹を元に回輝語の類別詞を論じた。回輝語の類別詞は数詞、名詞、指示詞の直後に現れうる。また主要部名詞との関係で言えば、類別詞は主要部名詞の前に現れる場合と、後に表れる場合がある。前者は数詞との共起が必須で、不定である。後者は数詞が現れない場合もあり、定を表す。

1. はじめに

回輝語は中華人民共和国海南省三亜市鳳凰鎮回輝村および回新村に約 6000 人の話者を持つオーストロネシア系の言語である。回輝語には周辺の言語と同様に、品詞として類別詞をたてることが可能である。本論は 2002 年から 2010 年に筆者が両村で収集したテキストに現れた用例および質問形式で得られた回輝語の類別詞を提示し、類別詞が出現する環境や、文法的機能について述べる。

回輝語の音韻体系、本論で用いる表記およびその概略的音価は表 1、2、3 の通りである。

表 1 回輝語の子音体系

| | | 両唇音 | 唇歯音 | 歯音 | 歯茎音 | 軟口蓋音 | 喉頭音 |
|-----|-------|-----------------------|------|-----------------------|--------|-----------------------|--------|
| 鼻音 | | m[m] | | n[n] | nj[n̟] | ŋ[ŋ] | |
| 破裂音 | 無声無気音 | p[p] | | t[t] | | k[k] | ?[ʔ] |
| | 無声有気音 | ph[p ^h ~ɸ] | | th[t ^h ~ɸ] | | kh[k ^h ~x] | |
| | 入破音 | b[β] | | d[d] | | | |
| 摩擦音 | 無声音 | | | s[s~ɕ] | | | h[h~ɦ] |
| | 有声音 | | v[v] | | | | |
| 摩擦音 | 無声音 | | | ts[ts~tɕ] | | | |
| 側音 | | | | l[l] | | | |

¹ 劉立清、楊自武両氏（ともに 1981 年生まれ、男性）には調査の度にコンサルタントとしてひとかたならぬ協力をいただいた。あらためてここに謝意を表したい。言うまでもなく、本論に関わる全ての誤りは筆者の責任に帰する。

表 2 回輝語の母音体系

| | 前 | 中 | 後 |
|---|-----------------------------|------|--------|
| 高 | i[i~ɪ] (w) [ɨ] ² | | u[u~o] |
| 中 | e[e] | ə[ə] | o[o] |
| 低 | a[a] aa[æ:~a:~ɑ:] | | |

表 3 回輝語の声調体系

| 声門化無し | 声門化あり |
|--------|---------|
| 55 高平 | |
| 33 中平 | 30 中声門化 |
| 21 低下降 | 10 低声門化 |
| 42 高下降 | |
| 24 上昇 | |

2. データについて

筆者は2000年7月から回輝村および回新村で回輝語文法の記述をすすめる為の調査を継続している。そのなかで、2002年、2010年には回輝村在住の2名の女性に民話を語ってもらったものを録音し、別のコンサルタントの協力を得て文字化した。また2010年の調査では長く漁業に従事している男性に昨今の漁業のありさまを語っていただいたものを録音し、別のコンサルタントの協力を得て文字化した。本論はこれらのデータとコンサルタントへの質問に対する回答に基づいている。なお、民話の語り手は80代と50代の女性、漁業の語り手は50代の男性である。文字化に協力して下さったのは楊子武氏（1981年生まれ、男性）である。

3. 類別詞の例

Aikhenvald (2000: 1)は名詞をカテゴリー化するデバイスを広く総称して **classifiers** とし、その下位に属するものの一つとして **numeral classifiers** を挙げている。本論で論じる回輝語の類別詞はこれに相当し、名詞をその形状や機能によって分類する機能を担っている。つまり、ある名詞がどの類別詞をとるかはその名詞の形状や機能によってある程度予測が

² 漢語からの借用語のみに現れる。

可能である。しかし、どのような基準でカテゴリーが形成されているのかまだはっきり分からないところもある。

筆者はテキストの収集とは別に、質問形式で類別詞の例を集めた。筆者が中国語で、ある名詞を提示し、それに相当する回輝語の名詞をインフォーマントに答えてもらい、次にその名詞をどう数えるかという質問をして類別詞を得るという方法で、134の名詞に対してどの類別詞を用いるかを質問し、表4のような回答を得た。

表4 回輝語の類別詞および共起する名詞（次ページに続く）

| 類別詞 | 共起する名詞 |
|---------------------|---|
| kie ²¹ | 言葉 |
| lai ²¹ | 歌 |
| lau ³³ | 牛、水牛、仔牛、象、馬 |
| pha ⁵⁵ | 土地 |
| phia ⁵⁵ | 掛け布団、ハンモック |
| van ³³ | 家屋、ビル |
| zok ²¹ | 色 |
| pat ³³ | 水田 |
| pho ⁵⁵ | ボール、モスク、卵、石、椅子、井戸、貝、籠、学校、蚊帳、キノコ、ケーキ、イカ、米、扇風機、たらい、ベッド、帽子、星、文字、粉、やかん、ヤシの実、山、指、ふた、窓、瓦、池、水槽、歯、釣り針、豆、鍋、夢、部屋、瓶、カーテン、穴、時計、皿、石けん、船、電球 |
| dong ⁵⁵ | 建物 |
| tsio ³³ | 花 |
| phu ²¹ | 自動車、自転車 |
| phun ³³ | 樹木、ヤシの木 |
| se ⁵⁵ | 人、馬、蝇、犬、蚊、兄弟、魚、鮫、鶏、猫、へび、鼠、蟻、めくら、つんぼ、赤ん坊、 |
| tan ³³ | 服、ズボン |
| na ⁵⁵ | 片方 |
| lu ⁵⁵ | お椀 |
| tsion ²¹ | 杯 |
| puan ²¹ | 群 |

表 4 回輝語の類別詞および共起する名詞（前ページの続き）

| 類別詞 | 共起する名詞 |
|---------------------|---|
| puən ²¹ | 本、ノート、コーラン |
| tsit ³³ | ボールペン |
| phu ²⁴ | メガネ、網 |
| pau ³³ | タバコ一包み |
| tsiat ²⁴ | 眼、靴、箸、鶏手羽、腕、脚 |
| be ²⁴ | 川、木の幹、小枝、さとうきび、しっぽ、タバコ、鉄棒、ひげ、ひも、かみ、ベルト、マッチ、羽毛、橋、針、線、道、プレスレット、蛍光灯、ろうそく |
| de ⁵⁵ | 紙、はっぱ、むしろ |
| khoei ³³ | 雲、肉、土地、水田 |
| pa ²¹ | 鍵、鎌、剣、小刀、のこぎり、歯ブラシ、包丁、櫛、笛、スプーン、はしご、傘、はさみ |
| sin ²¹ | 壁、雲 |
| za ²⁴ | ケーキー切れ |
| siong ²¹ | 列 |
| lau ²¹ | 階 |

3. 類別詞が現れる環境

回輝語の類別詞が出現しうる環境は 3 通りある。すなわち数詞の直後、名詞の直後、指示詞の直後である。以下の例文では類別詞を大文字で表記している。

(1) 数詞の直後

ma²¹vi²⁴ tha²¹ ta²¹ SE zaang³⁰

むかし ある 1 CL 人

‘むかし、一人の人がいた。’

(2) 名詞の直後

sau⁴²tj²¹ siong¹⁰ haai²¹ thai²¹mai³³ SE taai³⁰

そして 思う 害する 妹 CL 死ぬ

‘そしてその妹を殺そうと思った’

(3) 指示詞の直後

kaan³³ nan³³ SE
 魚 その CL
 ‘その魚’

鄭 (1997: 81-82) は「量詞の前には数詞があつて初めて名詞を修飾することができる(P. 82)」としているが、(2)(3)のように類別詞の前に数詞がこない例もある。

(1)(2)(3)の違いを言い換えれば、(1)では類別詞は主要部である名詞に対して先行しているのに対して(2)(3)では主要部名詞に後続している。本論では仮に前者を類別詞先行型、後者を類別詞後続型と呼び、両者の違いを検討する。

4.1 数詞との共起

類別詞先行型の例を見ると、類別詞は常に数詞と共起し、数詞を伴わずに類別詞が現れる例は見られない。例えば、

(4) nau³³ sau^{42ti21} sien²¹ naang³⁰ SE na²⁴
 彼女 そして 生む 6 CL 子供
 ‘彼女は6人の子供を生んだ’

のような例はあるが、

(5) *nau³³ sau^{42ti21} sien²¹ SE na²⁴
 彼女 そして 生む CL こども
 ‘彼女は子供を産んだ’

のような例は見られない。

それに対して類別詞後続型では数詞との共起は義務的ではない。次の(6)(7)ともに類別詞

後続型であるが、(6)は数詞 *thua*²¹「2」が類別詞の前にあるのに対して、(7)は類別詞の前には数詞は無い。

(6) *se*³³ *thua*²¹ **SE** *i*⁵⁵ *tsiang*³⁰ *nan*³³
馬 2 CL 寝る 場所 その
‘その2頭の馬はそこに寝た。’

(7) *la*²¹*tsun*³³ **SE** *kiang*³³ *poi*²⁴ *tha*³³
小鳥 CL できる 話す 言葉
‘その小鳥は言葉を話せる。’

4.2 定性

類別詞先行型は、それまでの文脈で言及されていない事物が出現する場合に用いられる。例えば、次に見る(8)は物語の冒頭で主人公である老夫妻を導入する場面で、「ある老翁」、「ある老婆」には類別詞先行型が用いられている。

(8) *tha*²¹ *ta*²¹ **SE** *kai*³³ *ta*²¹ *se*⁵⁵ *na*²¹
有る 1 CL 老翁 1 CL 老婆
‘あるお爺さんとおばあさんがいた’

それに対して類別詞後続型はすでに話題に上っている事物を指す場合に用いられる。たとえば、次の(9)には類別詞を含む名詞句が2回出現する。ひとつめは(8)と同様に物語冒頭で小鳥が登場する場面である。この小鳥はここで初めて出現し、それまでの文脈で言及されていないので類別詞先行型が用いられている。それに対して二つ目の類別詞は「その小鳥は言葉が話せた」の部分に出現する。ここで「その小鳥」は前文に登場した「小鳥」を受けており、類別詞後続型で表されている。すなわち類別詞後続型で表される名詞句はその文脈に既出の特定のものを指している。

(9) hiou^{30si24} tha²¹ ta²¹ SE la^{21tsun33}, la^{21tsun33} SE kiaang³³
 昔 ある 1 CL 小鳥 小鳥 CL できる

poi²⁴ tha³³

話す 言葉

‘昔ある 1 匹の小鳥がおり、その小鳥は言葉が話せた’

5. 結語

本論は調査で現れた回輝語の類別詞の例を共起する名詞とともに提示した。次に類別詞の出現環境について述べた。類別詞は数詞、指示詞、名詞の直後に現れうるが、類別詞が主要部名詞よりも前に現れる場合はその名詞句の指示対象は不定であり、反対に類別詞が主要部名詞に後続する場合、その名詞句の指示対象は定である。個々の類別詞が形成するカテゴリーに関してはさらに詳しく検討する必要がある。

略号

1sg. 一人称単数

2sg. 二人称単数

CL 類別詞

参考文献

- Aikhenvald, Alexandra Y. (2000) *Classifiers*. Oxford: Oxford University Press.
 郑贻青 (1997) 『回輝話研究』中国新发现语言研究丛书 上海: 上海远东出版社

Classifiers in Tsat (Huihui)

Nobuhiko Tazoe

Keywords: Tsat, Austronesian, classifiers.

Abstract

Tsat is an Austronesian language which is spoken in Huihui and Huixin villages in Sanya city, P.R.China by about 6000 people. This paper examines classifiers in Tsat on the basis of my field data collected from 2002 to 2010.

In Tsat, classifiers can occur right after a numeral, noun, or demonstrative. In a noun phrase in Tsat, classifiers can occur either before or after a head noun. The former co-occurs with a numeral, and the reference is indefinite. The latter can occur without numeral, and the reference is definite.

(たぞえ・のぶひこ 沖縄国際大学非常勤講師)